



色
集
及
六
文

下

中村俊定文庫
文庫 18
997
2





翁及故下

菴屋日記



山形縣飽海郡遊佐町

醫 堀 文 悦

十六日乙州亭に集會し、少義仲寺に任持
其外僧徒に禮物并遺物木の沙汰しおし

昨夜を大に以苦勞と云ふ相しるを先師
より遺すに通し是相史に配分は及ぶ外
寺納少の事申候交且亦伊賀が一向に
及事申候事ありて存る然る人其
之申交に付拙史一人の名目か憚ぬ

△

故之遺名加入中及是西之義及法合
度又之信一七方之系法國建中退
後子之申於以是義和止停能信百
約息以信及付之志涉終焉之記一章
貴雅涉牛之叔友右常之戶信百只
今之出坐之山下系信之而之止
也

十月十日

去來

正角英雅

遺書

人申物相續以之...
之四年旁雖及之...
之自寺納之...
之曲翠子始...
之今四...
之正則...
之

浄室物

一 出山佛一躰

御長一寸一丁

今長崎より

一 鐵如意一本

佛頂禪師の附典長押延て凡一尺九寸位頭萬葉形金箔木曾寺より大草に附典

一 親音經

小本一部

一 紙縷袈裟

佛頂禪師の附典

一 被風

一 銅鉢

一口

一 木硯

櫻木より旅硯

一 古今集序註一部

一 百人一首 一部

一 新式 一部

一 奥之細道 一部

一 浄笠 一盖

一 笠蓑 一被

一 御杖 一本

惟此の附典ありの今昔坊井山の藤風羅堂より

一 浄頭陀 一

右紙縷袈裟より以下七品八兼く惟此の附典ありの物ありて故に惟此の附典あり

中杜子美詩集山家集外に後猿公著と題ありて奇仙三巻より四五吟程外に浄室物の及故亦入別

小紙を包むる布裂五寸又六寸許上色紙、紗布と云
を法風と云ふは和歌の古短尺二枚に鳥蛙写、後
二枚

は狭、紗布、性信
の画、今女、曉、秋
死

右の巾紙を包むる五寸又六寸の布裂、并松
鳴蛙写、画、鳥、法、支、量、を、り、以、形、見
下、拂、を、浮、付、を、り、極、意、希、一、生、涯、家
物、に、仕、交、る。

古紙

は百約、枯尾、秋
集、あり

十の、於、義、仲、寺、止、る、之、他、諸、百、約、卷、尾、紙
鳥羽の文、甚、松、風、妙、写、の、本、現、是、流、四、十、二、人

然、是、人、為、之、益、法、亦、安、て、成、る、在、也
恭、和、久、の、法、在、る、は、亦、し、り、以、安、と、云、ふ、
然、と、云、師、於、大、坂、大、病、し、如、之、考、惟
然、と、中、を、切、大、法、也、答、を、り、在、を、法
故、紙、面、に、是、と、云、ふ、を、角、は、中、抄、を
其、後、所、り、加、法、保、善、と、云、ふ、以、其、生、之、法
為、お、け、去、十、二、條、以、迂、化、法、格、に、施、中
之、後、少、け、故、之、教、早、速、と、云、ふ、亦、當、寺
と、云、法、と、其、意、十、字、を、法、法、を、待、と、云
法、也、是、を、云、ふ、法、由、人、中、一、等、法、也

別後昨身之御借百約入本後

一清書之目録之御方之御御後居

以不清給入一書清給 清肌付

清書 右書 右書 仁心 一時 清給

本之贈多以外之古清衣書之御較多也

之御大坂出之御書之故之御書

御書

一清給御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書

5051111

一書自子波之氣清書之御書

御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書

巨御之清書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書

御書之御書之御書之御書之御書

△

中土甚早分命我微細之致百部。也
身建中亦多雅文。以厚情之程湯
終難中之。色甚多。一所不信之境
界。亦多。約。五。六。第。思。能。信。切。
く。又。妙。意。四。指。委。下。下。候。病。中。
始。終。多。分。抱。く。月。能。令。親。難。く。申。附
法。亦。多。新。造。事。を。申。中。七。身。身。を。以。て
他。亦。く。宗。の。親。難。中。く。若。目。身。の。難。志
を。有。る。

一自大坂而後之。中。二。百。一。法。

竹。色。已。漸。十。二。百。一。等。亦。多。申。亦。く。中。
志。未。お。面。亦。中。の。甚。在。病。氣。大。切。成。等。
為。く。志。の。前。事。建。使。志。若。由。一。宮。子。身。難。志。
く。以。亦。多。病。等。の。中。の。許。亦。の。使。く。志。
中。の。以。亦。十。六。の。一。朝。子。身。の。中。の。時。邊。化。の。
子。の。後。事。難。志。の。中。の。難。志。送。亦。の。亦。多。
後。設。子。の。中。の。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。
以。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。
之。の。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。
亦。許。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。亦。多。

初瘡と老人の如きお痛湯
九月下旬致使氣の瘡後心の腹茶い
身に出勤も之に聲力も未だ中にも能
く其徳風も之に字お取入中にも
一芭蕉を林様致意の詩一紙并
打守の封何れ一字一海越傷湯思
おとす
一亡者き相の候に付は御願の御心なき
くくの中併亡身入道以可き俗縁の
表向も之に借多の案付しゆの公案を

言の事格別にもお依何れお世に
仲吉の寺納の事も之に成す
此中お世にもお湯な事お世に
計
一壽の父子治の事半し度位切骨打
始終の感入の事お世にも勿論
代り考へたるに先法もお世にも
一日本來の父子治の事お世にも
り
一お世に之れも古衣お世にも

遊に致さるる外に古衣物も亦存あり
此等の上衣は亦必し合意なるものあり
併し此等も亦余情所願せず

十月廿日

相尾半右衛門

余信判

晋 其角換

向井吉貞換

清道中換

且此等物亦乃遠く踏込中より

拾遺書 九

痛可なりと云中一日も亦いふ
為し中より

別巻中一巻の色蕉死すとの持主は公
同級なり中より如主の持主なる
飯丈舟辨世なり成りなり
故に著る年録にありし中より
可し紙面より其級枝なりなり
中より其書も亦合意なるものあり
其書も亦合意なるものあり

清田向... 長... 病...
... 引... 出... 子... 墓...
... 上... 下... 先...
... 終... 終... 終...

十月二十

松尾中乃

義仲寺換

覽

一 清布施

金二百正

一 同清仙米清新米料

同二百正

通卷下 十一

一 同清米湯料

同百正

一 清布施

同百正 松尾氏二部

右

以飛札得... 益清... 延...
... 延... 延... 延...
... 延... 延... 延...
... 延... 延... 延...
... 延... 延... 延...

十月廿二

松尾

三歩筆及之尺寸

右之師嗣お承之印季冷翁之定
師之清お承之印季冷翁之定
口歌之承お承之印季冷翁之定
如件

元禄七年甲戌十月号 向井生外

松尾半左之丞

但三ヶ所底 二ヶ所底小指先經一ヶ所底小指
指四角角換之也

翁反故下 畢

公明堂早

浪華書林

心齋橋通北久太印町

鹽屋 忠兵衛



